

# 生前退位へ強い思い



象徴としての務めについてのお気持ちを表明される天皇陛下＝宮内庁提供

## 天皇陛下 お気持ち表明 「象徴の務め難しくなる」

天皇陛下は八日午後三時、象徴としての務めについてのお気持ちをビデオメッセージで表明し、生前退位の実現に強い思いを示された。八十二歳となり、次第に進む体の衰えを考慮し「全身全霊をもって象徴の務めを果たしていくことが難しくなるのではないかと案じています」と語り、国民に理解を求めた。公務の重要性を強調し「象徴天皇の務めが安定的に続いていくことをひとえに念じる」とした。

憲法上、天皇は国政に関する権能がないため、陛下は「現行の皇室制度に具体的に触れることは控える。個人としての考えを話す」とした。体力低下を覚えるようになり「従来のように重い務めを果たすことが困難になった場合、どのように身を処していくことが、国にとり、国民にとり、私のあとを歩む皇族にとり良いことであるか考えるようになった」と明かした。

公務の負担軽減策による対応には「国事行為や、公務を限りなく縮小していくことには無理がある」と言及。天皇の心身が重篤な場合に置ける摂政には「天皇がその立場に求められる務めを果たせぬまま、生涯の終わりに至るまで天皇であり続けることに変わりはない」と否定的な考えを示した。

2016年8月8日発行